

タンパク質抽出試薬[大腸菌]

Cat No.CL-3010,CL-3011,CL-3012

使用説明書

2022年10月改訂

【目的・用途】

大腸菌などのバクテリアから総タンパク質を抽出するための試薬です。面倒な凍結融解や超音波破碎なしで、高収率でタンパク質を抽出できます。本試薬で抽出したタンパク質は、電気泳動、ウェスタンブロットリング、免疫沈降、ELISAなどに使用できます。

リン酸バッファータイプ、Tris バッファータイプ、HEPES バッファータイプをラインナップしています。後にタンパク質標識などを実施する場合はリン酸基やアミノ基を含まない HEPES タイプが最適です。また、本試薬に含まれる界面活性剤は、透析や脱塩カラムなどで除去する事が可能です。

【特徴】

- 1) 超音波破碎・凍結融解不要のタンパク質抽出試薬
- 2) Ready-to-use
- 3) 3種類のバッファータイプでラインナップ

【キット内容】

Cat No.	内容	保存	容量
CL-3010	タンパク質抽出試薬[大腸菌]/リン酸Buffer	室温	100mL
CL-3011	タンパク質抽出試薬[大腸菌]/Tris		
CL-3012	タンパク質抽出試薬[大腸菌]/HEPES	冷暗所	

【使用期限】

上記保存方法にて1年

【本試薬以外に必要なもの】

- ・ プロテアーゼインヒビター(必要な場合)
- ・ リゾチーム(必要な場合)
- ・ DNase I (必要な場合)

【使用方法】

- 1) 培養液を 5,000xg、10 分間遠心し、ペレットを回収します。
- 2) 必要に応じて抽出試薬にプロテアーゼインヒビター、リゾチーム、DNase I などを加えます。
※ 必要な試薬量はペレット 1g (wet volume) あたり 4mL です。
- 3) 1mL 培養からのペレット (50mg wet volume) あたり 200uL の抽出試薬を加え、ピペッティングします。
- 4) 室温、10-15 分間インキュベートします。
- 5) 15,000xg、5 分間遠心分離し、上清を回収します。
- 6) その後の実験に使用します。

【トラブルシューティング】

トラブル	原因と対策
目的のタンパク質が可溶化しない	目的のタンパク質がインクルージョンボディ中にある。発現条件を検討してください。または、インクルージョンボディの可溶化を行ってください。 ペレットが多すぎる。ペレット 1g (wet volume) に対し、4mL 以上の抽出試薬を加えてください。リゾチームを加えてください。抽出前にペレットを凍結融解することで、タンパク質の回収率が改善する場合があります。
抽出液の粘性が高い	DNAが抽出されている。DNase Iを加えてください。



株式会社ファーマフーズ アプロサイエンスグループ
〒770-0865 徳島県徳島市南末広町 4-53 エコービル 4階
■Tel:088-678-6372 ■Mail:bio@apro-s.com
■Url:https://apro-s.com/
本社 〒615-8245 京都府京都市西京区御陵大原1-49